

June 30, 2022  
nacla

## 新生コロンビア：左翼の夜明け

A New Colombia: The Rise of the Left  
<https://nacla.org/new-colombia-left-elections>

Ociel Alí López

### リード

グスタボ・ペトロとフランシア・マルケスのコロンビアでの勝利は、紛れもなく歴史的なものである。だが、コロンビア初の左派指導者として、彼らは大きな課題に直面することになるだろう。



写真 Gustavo Petro and Francia Márquez

### \* 左派候補の歴史的勝利

コロンビアの大統領選挙において、左派のグスタボ・ペトロと彼の副大統領候補であるアフロ・コロンビアの環境活動家フランシア・マルケスの勝利は、前例のない歴史的変化をもたらすものであった。

「歴史協定」運動 ( Pacto Histórico ) による彼らの勝利は、長い間傍観されてきた社会集団が、初めて選挙で多数派となったことを意味する。

新しい多数派の基盤はカリブ海と太平洋の海岸、アマゾン、そしていくつかの大都市からなる「周辺部」である。彼らの支持者には、多くのアフリカ系コロンビア人と先住民が含まれる。

国際的には、ペトロとマルケスの勝利は、ラテンアメリカにおける米国の安息地を揺るがした。

このことは、この地域ですでに大多数となった進歩的な政府が、各々の政治的な同盟関係を強化し、米国に反撃することを可能にする。

### **\* 新たな困難の始まり**

しかし、コロンビアの状況は複雑である。それはこの歴史的な勝利の影響を弱める可能性がある。

新指導者は、国家が実際には権力機構を独占できず、断片的な犯罪集団が増殖している国を受け継ぐことになる。

エドゥアルド・サパテイロ陸軍大將は選挙戦でペトロに反対する政治的な発言を繰り返した。このことことから、軍部の立憲思想には疑惑の目が向けられている。

この国では、伝統的な寡頭制の保守とリベラルの潮流が拮抗し、党派対立の伝統を受け続けてきた。しかしこれら両派は、新大統領による新たな取り組みに反対し、それをなんとしても阻止しようとするだろう。

さらにペトロとマルケスは、議会の与野党対立、脆弱な与党と強大な野党にも直面している。

このような懸念はきわめて切実だ。しかし、当面ハネムーンが続く間は、新大統領には多くの余地が残されている。

## **\* ペトロ勝利への道のり**

ペトロはかつてゲリラ組織 M-19 の一員であった。1990 年代のはじめに合法活動に復帰し、その後はボゴタ市長（2012-2015）や上院議員を務めた。

大統領候補として 2 度戦い、落選したが、平和を求める運動の中心的存在として、民衆の要求を代弁して来た。

副大統領候補者のマルケスは、小さな鉱山の町の出身で、アフロ系コロンビア人の指導者である。故郷のカウカ県で人権活動を始め、近年は全国的な抗議活動の中心として活躍している。今回選挙では環境と女性の権利の擁護者として登場した。

ペトロとマルケスは、左派・進歩的な個人と運動の集まりである「パクト・ヒストリコ」の一員である。彼らの進歩的で環境保護的な政策が、コロンビア史上最多の 1100 万票を獲得することとなった。

これは実業家・土木技師の保守党候補ロドルフォ・エルナンデスに 70 万票以上の差をつけての勝利である。

## **\* ウリベによる暴力支配政治の打破**

彼の勝利は、前保守党大統領アルバロ・ウリベと、長年にわたるウリビスタの支配を打破し、多くの国民が投票を棄権する民主主義の暗黒時代に終止符を打った。

この 20 年間、ウリビズモ（ウリベ主義）は選挙を席卷してきた。その創始者であり指導者であるウリベ元大統領（2002-2010）は、武装左派への強硬な軍事的対応の推進者であった。

彼の存在は、大統領としての 8 年間だけでなく、その後の 10 年間の選挙結果にも大きな影響を与えている。

2016 年の投票でゲリラとの和平協定が否決された。そして 2018 年の大統領選挙で彼の子飼いのイバン・ドゥケが勝利したこともその一例である。

## **\* ウリベ体制は戦争マシン**

ウリビスモは選挙マシンであるばかりでなく、戦争マシンでもある。

それは「国際社会」と「グローバル・メディア」の共謀によって仕立て上げられた。

そして社会的指導者や和平合意の署名者の暗殺、虐殺、強制失踪、集団墓地の発掘にいたるまで、果てしない暴力の傷跡を作り出してきた。

これらは全て、破壊的なグループ、特に FARC を阻止することを目的としている。ウリベの在任中、強権国家は FARC の戦闘員の数を大幅に減らし、FARC の最高司令官を殺害し、多くの人質を解放することに成功した。

これらの「成果」は、コロンビアを裏庭の中の「砦」、アンデス地帯の橋頭堡に据えてきた世界権力の中心（ワシントン）から高い評価を受けた。

## **\* 投票率増加は政治参加キャンペーンの成果**

ウリベが絶好調だった 2006 年の選挙では、彼は圧勝した。しかし投票率はわずか 45% だった。

一方、7 月 19 日（6 月の間違いか？）に行われた大統領選の決選投票では、第 1 ラウンドの投票率が 54% だったのに対し、58% という投票率を記録した。これは今世紀最高の投票率である。

とりわけ、ペトロとマルケスが最も影響力のある地域で棄権者が減少したことが特筆される。それは太平洋とカリブ海の沿岸、そしてボゴタなどの大都市である。

この投票率増加は壮大な成果である。

広範な暴力と犯罪増多の中で、そして左翼には常に否定的な報道が浴びせられるにもかかわらず、それは実現した。

ペトロは、コロンビアの「周辺部」を動員し、国内の保守的な地域、特にアンデス地方におけるウリビスモの牙城を崩壊させた。

### **\* 正副大統領は辺境出身者**

ペトロがコロンビア初の沿岸部出身の大統領であり、マルケスが初のアフロ・コロンビア系の副大統領であることは偶然ではない。

それは選挙結果の地図を見れば一目瞭然である。

中央アンデス（コロンビアの主要部）では、ポピュリストである中道右派の大富豪エルナンデスが支持された。ウリベ派は決選投票ではエルナンデス支持に回った。

ペトロへの支持は、かつて市長を務めた首都ボゴタに加え、辺境にも及んでいる。それは太平洋とカリブ海の海岸線、そしてアマゾン流域の広範な地域を含む。

### **\* 辺境住民の怒りが政治の地滑りを起こす**

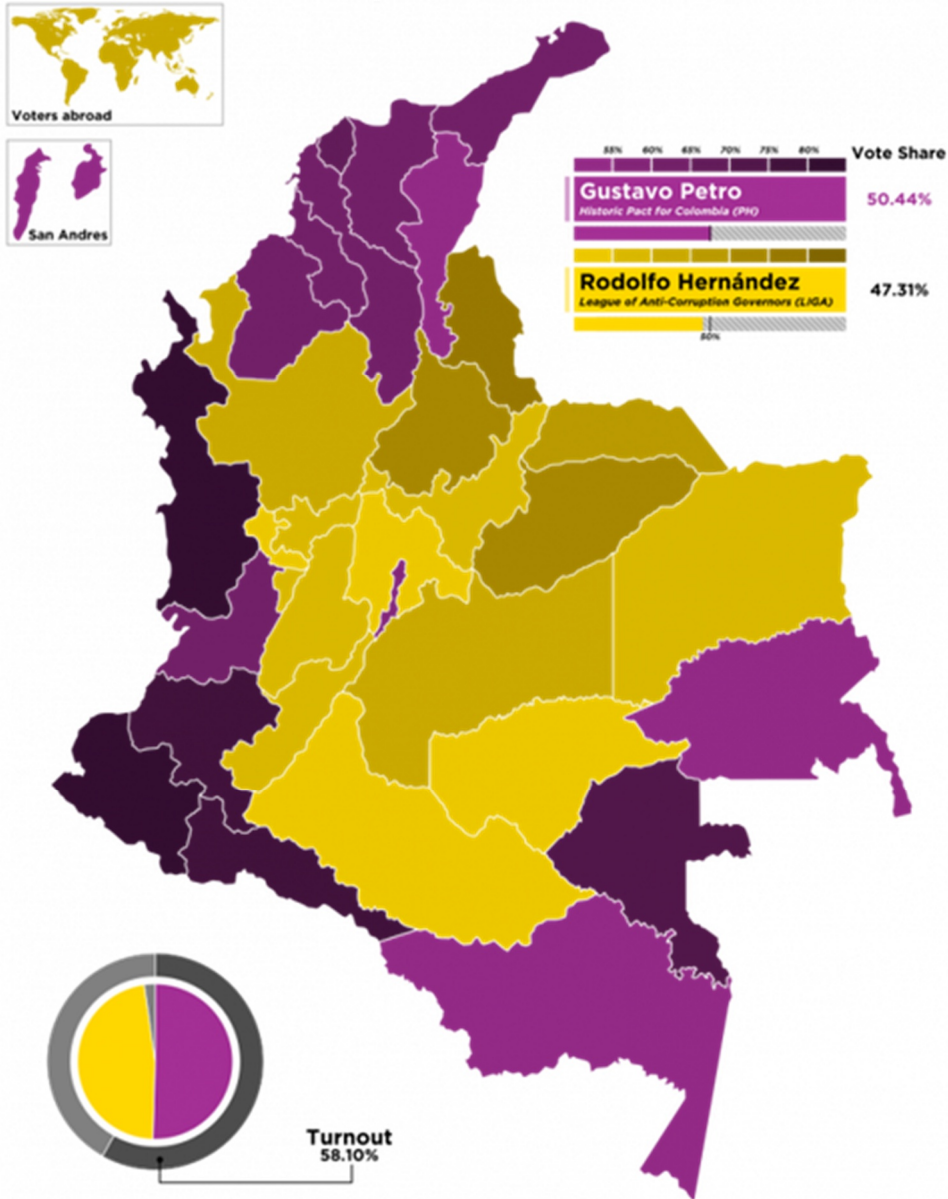
このような急進的な転換は、平和な時代には起こらなかったであろう。だから余計に壮大である。

ペトロとマルケスへの投票の大部分は、この間に暴力が蔓延した地域からもたらされた。それは、これまでコロンビアの歴史から排除されてきた人々、特に保守的なアンデスの伝統的支配層から「非コロンビア的」とみなされた人々の行動であった。

それは先住民やアフロ・コロンビアの人々による、既成権力、その多くはウリビスモの継承者に対する抗議の票なのである。

この文化的な新興パワーは、古くからの強者に対する不服従の行為である。そして既成権力は、このような民衆運動を阻止することができなかったのである。

## 2022 Colombian presidential election 2nd Round



The Geopolitical Impact of the Left's Win in Colombia  
(ガルシア・マルケス好きにはたまらない地図でしょう)

### \* コロンビアは米政府の秘密工作の拠点

過去 20 年間、ワシントンはコロンビアを CIA や DEA のような強力な支部を含む前線基地とした。秘密基地や武器庫が相次いで建設された。国軍への援助、特別なウラ資金、そして戦争推進派の強化が図られた。

米国は、コロンビアのゲリラを撲滅するだけでなく、隣国のベネズエラその他の地域の進歩的な政権や運動をストップさせることを目指した。

#### \* 「コロンビア計画」への資金は 20 年で 100 億ドルに達する

「コロンビア計画」は米国とコロンビアの二国間協定で、左翼ゲリラと麻薬取引に対抗するために 2000 年に開始された。ラテンアメリカに対する米政府の資金投下としては、過去数十年間で最大のものであった。

2000 年から 2005 年の間に、米国政府は「コロンビア計画」に 45 億ドルを投じた。他の資料では、2001 年から 2016 年の間に 100 億ドルに近い数字が示されている。今日も、米国のコロンビアへの政治的、軍事的、財政的な介入は続いている。

#### \* 米国の政策に変化の兆し

こうした数年にわたる米国の努力は現在中断している。今回の選挙が方向転換を意味するようにもみえる。

この変化は、2018 年、2020 年、2021 年に相次いで国を席卷した社会的反乱の波に象徴されている。すなわち、長い間醸成されてきた変化なのである。

それが 2019 年の地方選挙、同年 3 月の立法府選挙におけるウリベ派の惨敗。そして 2020 年のウリベの上院議員辞職と 2 ヶ月間の自宅軟禁として結果した。

そして今回の選挙である。世論調査でペトロの勝利が予測されていたとはいえ、公式結果は驚くべきものだ。

#### \* Petro's Challenge

ペトロが引き継いだコロンビアは、多面的で複雑な問題を抱えている。しかもそれぞれが爆発的に増加している。麻薬取引もその一つである。

現在、コロンビアは世界最大のコカイン生産国であり、その生産量は増加の一途をたどっている。生産効率も上がっている。

### **\* コカイン対策の尻抜け**

2021年6月、ホワイトハウスの国家麻薬統制政策室はコカイン生産に関する年次報告書を発表した。そこには、コロンビアでわずか1年で15%近い増加を記録したと記されている。

2019年4月、トランプ大統領は、コロンビアのドゥケ大統領（当時）が麻薬輸出増加の主犯であると非難した。

### **\* 民主化なき「和平」が暴力の拡散をもたらす**

一方、和平合意などの交渉過程が進み、和平合意やその他の交渉プロセスを経て、ゲリラや準軍事組織の動員解除が行われた。しかしそれは、結局は暴力を増大させ、広大な領土の支配を国家から引き離す結果となった。

最近起きた二つの事件は、この潜在的な脅威を物語っている。

5月、反共準軍事組織「クラン・デル・ゴルフォ」は、リーダーの通称オトニエルの引き渡しに抗議して国土の大部分を麻痺させた。彼らは11県で少なくとも17の町に暴力を振るった。

2月には、民族解放軍（ELN）がいわゆる paro armado（ゲリラによる経済封鎖）を行った。そのため少なくとも11県で軍の対応が必要となった。

### **\* ペトロとマルケスのこれから**

ペトロには、これまで対立を深めてきた軍や宗教団体、メディアとどのように関わっていくのか、が当面最大の選択となっており注目される。



ほかにも課題は山積している。彼は、複雑で、多面的で、爆発的な状況に直面している。一例だが、2014年に彼をボゴタ市長の座から追放した自治体機関とも関係を回復しなければならない。

しかしペトロは政治家として素人ではない。

彼は「左派は急進化するのではなく、保守派を含む異なる意見を持つ人々と対話するために自らを開放する必要がある」と考えている。

しかし同時に、内戦後の世界の構築とポスト・ウリベの社会への移行を管理するにふさわしい経験と知識を持っている。そしてこの国の政治地図がどう変わっていくかの見通しを持っている。

今やペトロとマルケスは、数ヶ月前には夢物語としか思えなかった偉業を成し遂げた。

それはコロンビアの民衆の勝利であり、これまで排除されてきた人々の勝利である。

(了)

.....  
Ociel Alí López : ベネズエラ中央大学教授で政治学者。ラテンアメリカ、ヨーロッパの様々なメディアへの寄稿者。